

2018/04/03 道央 (石狩・当別)

「ひまわりの里」訪れる外国人狙い

石狩市、北竜町のほかは留萌市、留萌管内増毛町で、協議会のメンバーは自治体や地元観光協会など。認定された

【石狩】石狩市と空知管内北竜町など4市町で連携する「北海道ひまわり夕陽ロード形成事業推進協議会（仮称）」の事業計画が体験型周遊ルートを開発する北海道観光振興機構（札幌）の「インバウンド対応観光ルート創出事業」に認定された。北竜町のヒマワリ畑を訪れる外国人観光客を各地域へ呼び込む考えで、市は「日本海の豊かな海産物などの知名度を上げていきたい」としている。（折田智之）



石狩、北竜、留萌、増毛の協議会 ルート作り 周遊観光促す

のは3月30日。事業の助成金は年最大で500万円となる。石狩市が3市町に呼び掛けた。協議会事務局は石狩市に置く。現在認定されている全10ルートのうち、3振興局

ニンジンや夕日、酒造と結ぶ

をまたがるルートは同協議会の事業のみとなる。事業では北竜町の観光名所「ひまわりの里」を訪れる台湾など東アジアの観光客をターゲットとし、周遊を促す。台湾人観光客のレンタカー利用増を受け、「オロロンライン」と呼ばれる日本海沿岸のドライブルートの活用を呼び掛ける。石狩市のニンジンや夕日、留萌市のカズノコ、増毛町の酒造などの観光資源を結び集客を狙う。

石狩市では今月27日に「道の駅石狩 あいろーど厚田」（厚田区）が開業することから、市は暑寒別地域など北部の雄大な自然を生かしたトレッキングやサイクリングといった体験も売り出したい考えだ。

今月中にも事業内容を提案する公募型プロポーザル方式での業者募集を始める。本年度は台湾人を招いたモニターツアーや外国人観光客の受け入れ態勢を整えるためのセミナーを開くほか、外国人観光客向けの観光資源の調査を行う考えだ。

©北海道新聞社